（公財）福井県健康管理協会
がん検診事業部長　松田　一夫

健康 経営者・従業員のための ひとくちメモ

新たながん検診は進んで受けるべきか？

日本人男性は生涯に3人のうち2人、女性は2人のうち1人ががんに罹ります。男性が多く罹るがんは前立腺がん、大腸がん、胃がん、肺がんの順で、女性がもっとも多く罹るがんは乳がん、次いで大腸がんです。一方、がん死亡が多いのは、男性では、肺がん、大腸がん、胃がん、膵がんの順であり、女性では大腸がんがもっとも多く、次いで肺がん、膵がん、乳がんです（表1）。

表1　生涯のがん死亡および罹患のリスク
（2019年の罹患・死亡データ，2022年死亡データによる）

生涯のがん死亡				生涯のがん罹患			
男性		女性		男性		女性	
全がん	1人/4人	全がん	1人/6人	全がん	2人/3人	全がん	1人/2人
肺	1/17	大腸	1/38	前立腺	1/9	乳房	1/9
大腸	1/32	肺	1/41	大腸	1/10	大腸	1/12
胃	1/34	膵臓	1/47	胃	1/10	肺	1/20
膵臓	1/46	乳房	1/57	肺	1/10	胃	1/21
肝臓	1/57	胃	1/66	肝臓	1/33	子宮	1/29

がん検診の目的

がん検診の目的は、集団のがん死亡率を減らすことです。受診すれば、個人のがん死亡リスクも減ります。

市町におけるがん検診の方法

科学的根拠に基づいて市町で行われるがん検診は、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん、胃がんです。男女共にがん死亡上位を占める膵がんには適切な検診方法がなく、男性がもっとも多く罹る前立腺がんには死に至らないものが多いため、がん検診の対象ではありません（表2）。

①肺がん：胸部X線検査、タバコを多く吸う人では喀痰の細胞診も
②大腸がん：便潜血検査
③子宮頸がん：細胞診／HPV検査
④乳がん：マンモグラフィ
⑤胃がん：内視鏡検査／X線検査

世界的に広く行われるのは大腸がん、子宮頸がん、乳がん検診です。

研究が進行中のがん検診方法

①肺がん：低線量CT
②大腸がん：大腸内視鏡検査
③乳がん：乳房超音波検査

いずれも研究が進行中で、現時点で死亡率減少の証拠がありません。

その他に血液や尿中のマイクロRNAによるがん早期発見の研究も行われています。まだ結論は出ていませんが、とりわけ膵がんの早期発見に期待したいところです。

その他のがん検診

線虫によるがん検診の効果は不明です。PET-CTは、がんが疑われる場合には有効な検査ですが、がん検診としての効果は不確かです。

では、受けるべきがん検診は？

職場においても表2に載っている科学的根拠に基づいた検診を受けることが基本です。たとえ人間ドックであっても、効果が不確かな検診を受けることはお勧めできません。

他に大事なことは、要精密検査になれば必ず受ける、自覚症状があれば受診して検査を受けることです。

表2　科学的根拠に基づく市町におけるがん検診

	対象年齢	検診間隔	現在の方法	将来の方法は？	
肺がん	40歳以上	1年に1回	胸部X線検査＋重喫煙者には喀痰細胞診	低線量CT？	マイクロRNA ?? 線虫によるがん検査 ???? PET-CT ????
○大腸がん	40歳以上	1年に1回	便潜血検査	大腸内視鏡	
◎子宮頸がん	20歳以上	2年に1回	擦過細胞診		
	30～60歳	5年に1回	HPV単独検査		
◎乳がん	40歳以上	2年に1回	マンモグラフィ	乳房超音波？	
胃がん	50歳以上	2年に1回	胃内視鏡検査		
	50歳以上	2年に1回	胃X線検査		
	当分の間は40歳代，1年に1回も可				

○◎：世界的に広く行われている　　現在，日本で比較試験が進行中